



おおすみ、

「昔の人々は『祭り』を通して、暮らしをつないできた。
暮らしが脅かされる今の時代だからこそ、祭りを通じて地域の人々がこれからもつながっていくことを確認していきたい。」

松永 太郎さん



劇団

ニライ

スタジオ

「ヒメとヒコ」キャストのOBやOGが在籍する鹿屋市発の「劇団ニライスタジオ」。地域に文化をつなぐその取り組みを紹介します。



大好き。

「以前『おおすみ大好き』のシーンを、お客さんを巻き込んで叫んでみないか、と提案したことがあります。
そうしたら本番、キャストから『おおすみ大好きを一緒に叫んでみましょう！』と、演出に取り入れてくれて。
あの時は本当に、叫びながら涙が止まりませんでした。」

松田 幸久さん



▲ 昨年の2月、鶴戸神社(吾平町)での創作演舞の披露(上)と12月に開催された吾平物語(下)の様子。

文化をつなぐ

「劇団ニライスタジオ」は、地域の伝統芸能の魅力発信を目的として活動している劇団です。鹿児島県に根付く郷土芸能の披露や、郷土芸能を現代版にアレンジして発表するなど、イベント等で地域の文化を広げる活動を精力的に行っています。

団員は21人で、「ヒメとヒコ」のメンバーの他に沖永良部島の島民創作ミュージカル「えらぶ百合物語」や、龍郷町青少年ミュージカル「KIKUJIRO」で出演経験のあるメンバーが在籍しています。
伝統芸能は若い人にとっては魅力が伝わりにくい面もあります。

自身の成長

「ヒメとヒコ」でヒメ役を務めた体験は、私のふさがちだった自身の殻を破り、明るく変えてくれました。私は大隅の伝統文化や自然が大好きなので、ニライスタジオの活動で地域の魅力を発信しながら、これから自分自身も成長していきたいと思っています。

劇団ニライスタジオ 大松 歩乃花さん



鹿屋市出身。「ピンマイクを着けて、舞台の上で照明に照らされる瞬間が大好き」と語る。



▲「ヒメとヒコ」には第13代目のヒメ役として出演

青春が作り上げるもの

膨大な時間を練習に費やし作品を仕上げる「ヒメとヒコ」のメンバーと、それを支える人たち。たくさん人の人の想いが、舞台という総合芸術の場で花開きます。

「ヒメとヒコ」のクライマックス、高校生たちが「おおすみ大好き」と叫ぶシーンは1年間必死になって取り組んできた、まさに青春の結晶。高校生ミュージカルという鮮やかな表現の場が、この鹿屋の地にあるということの価値を改めて認識させてくれます。

文化と街のつながり

「ヒメとヒコ」の背景には、我々が暮らすこの街の歴史と文化に対する想いがあります。

コロナ禍にあつて、人と人とのつながりがますます希薄になる中でも、受け継がれていくものがあるということ。「ヒメとヒコ」という高校生ミュージカルがこの街の貴重な祭りであるということ。このことは、文化が我々の心を揺さぶり人と街とのつながりをもたらす、一つの形なのかもしれない。

演劇・歴史・音楽・ダンス…全ての文化が、新たにこの街の「つながり」を生み出すことを願って。

information

Instagram

劇団ニライスタジオ

- 活動内容 鹿児島県に根付く郷土芸能を受け継ぎ創作活動を行う
- 出演舞台 高校生ミュージカルヒメとヒコ/宝山ホール自主文化事業ヤジロウと海乱鬼/ミュージカル花戦さ/沖永良部県民ミュージカルえらぶ百合物語/奄美島民ミュージカルKIKUJIRO